
君が僕の全て。 - 第一話

夜咲 灰月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君が僕の全て。 - 第一話

【ZINE】

N8885Y

【作者名】

夜咲 灰月

【あらすじ】

僕は自分の事を何も知らずも彷徨っていた。

そんな時「彼女」に会ったんだ。彼女は僕を光へと連れ込む様に手を引っ張り出した。

僕たちの田舎ごと。（前書き）

短いです。男の子からの田舎です。

僕たちの出会い。

僕は自分の事を何も知らずも彷徨っていた。人の雑音ばかり耳に入つて来て、僕の事を話しているのか、といつも頭の中で心配をしている。気がつくと空からポタ、ポタ、と雨が降っていた。傘なんて無い。一応、雨宿りをしようと思つた時だつた。僕の上に傘もうさしてあつて、雨に当たる理由が無くなつた。振り向くと僕の後ろには同じ年位女の子が立つていた。

「貴方は？」僕は聞いた。女の子はぽかーん、としていた。そして彼女は何故か急に笑い出した。

「梅雨の季節に折りたたみ傘も持つてないだなんて、何をしてんの？」何も言い返さない僕に対して、彼女はため息をついた。
「ふう。君、名前は？わたしは白吹 沙良。沙良って呼んで？十六歳。君は？」

「……」答えが見つからない。沙良は僕の答えを待つてくれたが、どうしても答えられない僕に困った顔を向けた。彼女の**人形の様に美しい顔にはとても合わないコンビネーション**だった。

「帰る場所はあるの？無いんならさ、うちにおりでよ。ね？」
そう言って彼女は僕には勿体無いほど眩しい笑顔を向けた。僕は頷いた。そしたら彼女は僕の手を取つて力強く引っ張つた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8885y/>

君が僕の全て。 - 第一話

2011年11月26日19時47分発行